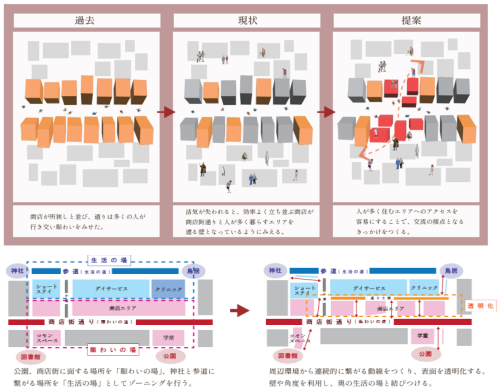
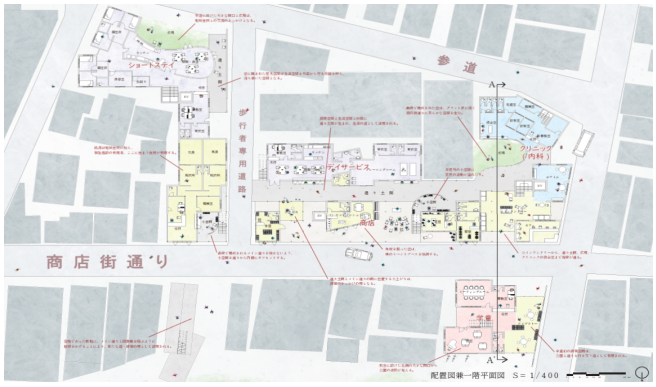
学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2025年	
受賞タイトル	**奨励賞**	
区　分	Ⅰ．　商業ディスプレイデザイン	
フリガナ	ニシムラフウカ	
制作者名	西村風香	
フリガナ	トウキョウデンキダイガク・ミライカガクブ・ケンチクガッカ	
卒業時の大学 学部・学科	東京電機大学・未来科学部・建築学科	
フリガナ	ヒノマサシ	職名
推薦者名	日野雅司	准教授
フリガナ	アキナイノムコウガワ	
作品名	商いの向こう側	

概　要

かつて、生産性を求め所狭しと店が並んだ商店街は、多くの人で賑わいを見せた。
しかしシャッターを下ろした店が目立ち始めると、それらはかえって周辺地域を分断する壁のように見えた。
今の形のままの商店街に、未来はあるのだろうか。今後は商店の機能のみに頼るのではなく、多くの人が
暮らすエリアを巻き込むことが町の未来に繋がると考える。
そのために、商店街を利用する人々がその奥にある暮らしのエリアを認識する必要がある。
本提案は、福祉施設を取り入れること、商店街通りに架かる一本の強い繋がりを解いていくことによる、
商店街と地域の新たな関係性の創出を目的とする。





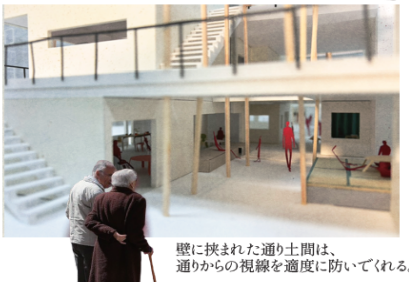
制作者名	西村風香
作品名	商いの向こう側

【コンセプト解説】

公園から一直線に伸びるライブラリーは、公園と商店街通りを行き交う道としての役割も同時に果たす

2階の開かれたコモンスペースは今日も商店街通りに賑わいを共有してくれる。

グリット状に続く通りに曲線が現れる。中には本が置いてあるみたい。今度寄ってみよう。



壁に挟まれた通り土間は、通りからの視線を適度に防いでくれる。

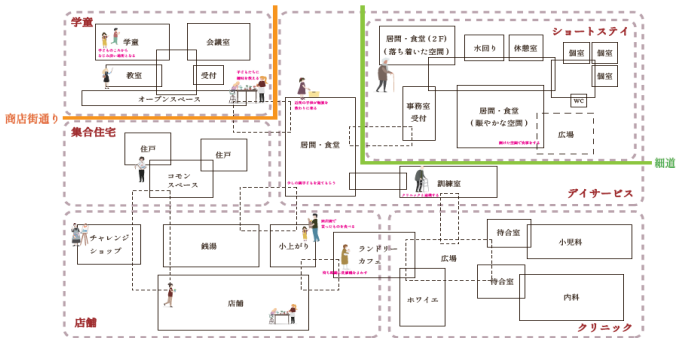
神社参りの帰りに妻の様子を伺う。柔らかな曲線と壁に囲まれた屋外空間は落ち着く。

畳空間には今日は子どもたちが勉強を教わりに来ている。その奥にはデイサービスの活動が見える。

提案「暮らしのエリアを巻き込み、町の未来へ繋ぐ」

商店街通りは他の道と比べて人通りが多いが、商店街周辺の**住宅街で暮らす人の数はもっと多い。**
商店機能のみに頼るのではなく、暮らしのエリアを巻き込むことが町の未来に繋がる。

プログラム「関係性を再構築、商いとともに暮らすとは」



対象敷地「昔ながらの人情味が眠る砂町銀座商店街」

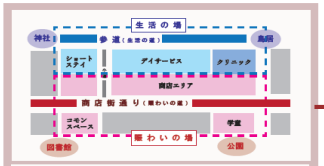
公園、図書館、参道に挟まれた区画を敷地に選定。

現地調査から以下のことが分かった。

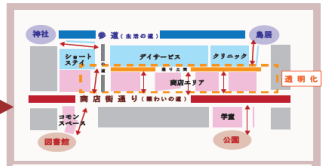
①昔から続くコミュニティが根づいている
②定期的なイベント開催など、商店街の活気づけに力を入れている
③子どもから高齢者まで、多様な世代が見られる

完全なシャッター街になる前に、商店街に根付くコミュニティを次の世代に繋いでいく。

設計「一本の道に奥行きをつくる」



公園、商店街に面する場所を「賑わいの場」、神社と参道に繋がる場所を「生活の場」としてゾーニングを行う。



周辺環境から連続的に繋がる動線をつくり、表面を透明化する。壁や角度を利用し、奥の生活の場と結びつける。